

平成 29 年度第 2 回 糖尿病重症化予防連携推進会議議事録(概要)

日時：平成 30 年 2 月 26 日（月）19 時 00 分～20 時 30 分

場所：総合保健福祉センター 講堂

事務局あいさつ 今年度第 2 回目の会議開催である。今回からは、糖尿病重症化に関する医療関係者に加えて糖尿病の患者会の方、団体の方にもご出席をいただいている。国においては、データに基づく生活習慣病予防、特に重症化予防の取組を推進している。保険者努力支援制度は、医療費適正化に取り組んだ市町村国保に対してポイントに応じてインセンティブを与えるという制度であり、この中でデータヘルス計画を策定し、医療費の削減に努めるということが主旨である。医療費削減の大きなテーマとして「糖尿病性腎症の重症化予防」が謳われているが、行政において、生活習慣病の重症化に対しては早期の段階から対応していくべきだということを強く認識しているところである。また、市の独自の動きとして、平成 30 年 4 月から新にスタートする第二次健康づくり推進プランの中で施策の 3 本柱というものを定めており、その中の一つの柱をデータヘルスの推進とし、「データに基づいた生活習慣病予防の予防対策」を講じていくとしている。この中では糖尿病対策も含まれている。第 1 回目の会議において、国や市の状況や糖尿病重症化の現状、関係団体の取組の情報共有と糖尿病連携手帳を活用した多職種連携の今後の取組等について協議をいただいたところである。活発な意見交換および情報共有がさらに進むことを期待している。

構成員紹介 別紙 構成員名簿参照

事務局 第 1 回の会議要旨について資料をご確認いただきたい。「各団体の取組についての情報共有」、「糖尿病専門医からの資料提供」、「糖尿病連携手帳の活用による関係者の連携」、そのツールとしての「シールの活用」についてご承認いただいたというのが前回の内容である。

糖尿病重症化予防に関する本市の取組として、現在策定中の第二次健康づくり推進プランの内容の一部をご説明させていただく。計画全体の体系図をご覧ください。基本目標は大きく 3 つあるが、基本目標 1 に「データヘルスの推進」とし、生活習慣病予防、重症化予防の推進を掲げている。赤の下線部分に「糖尿病重症化予防および慢性腎臓病対策の推進」として計画の中に明記している。基本施策のⅡで「糖尿病重症化予防および慢性腎臓病対策の推進」の内容を記載しており、「多職種連携による糖尿病重症化予防の取組」のイメージ図と新規事業として、「糖尿病連携手帳」を活用した多職種連携による糖尿病重症化予防の取組」を挙げている。また、市国保の「第二期データヘルス計画」の概要（12月北九州市国民健康保険の運営協議会資料）についての資料であるが、第二期計画策定のポイントとして、「保険者努力支援制度」を踏まえた取組の実施を入れており、糖尿病等の重症化予防の取組は配点が大きく、国も保険者が積極的に取り組むことを求めているということを記載している。

「糖尿病連携手帳を活用した多職種連携による糖尿病重症化予防の取組における関係者の主な役割一覧」について説明をさせていただく。横軸①～⑨番がこの事業を実施していく中で必要となる項目、縦軸が協力機関（団体）に整理している。コメディカルの部分で CDE の会、看護協会、栄養士会に関しては、◎の記載となっているが、それぞれが所属する機関において取組の実施をお願いしたいということである。次にそれぞれの団体ごとの具体的な役割について記載している。また、各関係団体の役割を対象によって分類（どんな方にどのような機関がどのように関わるのかという視

点で記載)して記載している。

これらの役割に加えて、まず1点は市民、関係機関に周知をどう図っていくかというのがスタート地点になる。もう一点は、「糖尿病連携手帳」の配布の件についてであるが、今回の整理としては、必要に応じて配布可能なところで配布とする。内科かかりつけ医以外のところでも配布していただくというような整理をしているが、原則的にはやはり、かかりつけ医から「糖尿病連携手帳」を配っていただくというのが原則であると考えている。日本糖尿病協会のHPに「医療機関以外の者が「糖尿病連携手帳」を配布することが可能である」ということ、「健診結果などから糖尿病の疑いのある方に対して医療機関以外の方から配布をすることも可能である」という風な記載が載っている。

構成員(糖尿病専門医) 確か前回は確認したと思うが、表紙にシールを貼るのは日本糖尿病協会了解済みであるということでしょうか。手帳表紙下の日本糖尿病協会名が残ればいいと。

事務局 はい。

構成員(日本糖尿病協会) 先日、日本糖尿病協会の理事会があり、この件について確認したが、シールの添付についてはOKということである。重症化予防の取組の役割ということであるが、例えば、重症化を予防するために一つ大きなポイントは糖尿病の診療を積極的にされていない、かかりつけの医療機関でどうするかということ、もう一つはCDEの会などから、保健指導者を行う専門職を医療機関に派遣していただいて予防から全体的に取り組んでいくというのが重要ではないかと思ったのだがその辺はどうか。

事務局 糖尿病専門医が不在の医療機関等でも糖尿病連携手帳を普及していくというのがこの事業の本来の目標の一つに掲げたところである。逆に例えば、CDEの方がいない内科で糖尿病連携手帳を配布することに対する難しい点というか、こうしたらよという点があるか、内科の先生に伺いたい。

構成員(かかりつけ医) 循環器専門の医師は沢山いる。糖尿病では、糖尿病重症の方と軽症で糖尿病予備群IGT(耐糖能異常)の方がいるが、IGTの場合、血糖の波があり、それが血管を傷つけて結構重症化が起こるケースが多く、これ(糖尿病連携手帳)を糖尿病だけに使うのか、IGTに使っているのか伺いたい。私は「糖尿病連携手帳」を使っているのだが、糖尿病の予備群にも管理が必要であるので使っている。しかし、他診療科の医療機関はどのような対象者に配布しているかわかっていない。CKD予防連携についてもそうであったように全体に行き渡するには時間がかかる。だからおそらくこれが普及していくには、循環器ではIGTからやはり見ていかなければいけない。糖尿病の先生方はインスリンを何単位打っているのか?というこういう風な状態ではやはりギャップがあると思う。それを埋めるためには、この「糖尿病連携手帳」を使っていきながら体系を結果的に作っていくようにしなければ最初からいろいろなことを言ってもおそらく無理があるのではないかと考えている。

事務局 役割として医療機関以外にも薬局等様々な機関に様々な協力内容について記載しているが、ご指摘のとおり、これはある程度仕組み的な話になるので、4月から一斉に始めるというのは難しいと思っている。何よりも現場の先生方や専門職の皆様にご負担をかけて、本末転倒になるというのは非常によくないことだと思っている。行政としては第二次健康づくり推進プラン、データヘルス計画の実施期間中のこの5年間6年間の間に定着させていくようなスケジュール感で考えており、運用していく中で、少し具体的なところは検討しないといけない部分も出てくると考えている。

構成員（かかりつけ医） 普及状況について確認をしないとけない。それはどう考えているか。

事務局 後ほど、説明予定であるが、医師会の研修会の場合などでアンケートを実施することを検討している。

構成員（かかりつけ医） ということは特定健診の登録医療機関の研修会などの場ということか。

事務局 後でアンケート案を具体的に提示させていただく予定である。

構成員（かかりつけ医） 糖尿病以外にも手帳はあるが、持ち腐れが多い。「糖尿病連携手帳」が一番守備範囲が広い。一つは特定健診を実施している、かかりつけ医（開業医）に配っていただく。これは医師会の研修会で広めたいと思っている。かかりつけ薬局をお願いしたいが、薬局によって駅前薬局などあるが、医療機関とペアリングで一緒にやっていただけたらということ薬剤師会と医師会の方で各区に下ろしていかなければいけない。医科と薬科は患者についてお互いに把握している。医科と歯科とでは歯科にかかっているかどうかお互いに把握できていないところがある。薬科はほぼ把握できているのでこの3師会の連動が必要と医師会は考えている。あともう一つは、大きい病院にかかっている患者で心カテを実施して糖尿病がある、腎臓の悪い方は山ほどおられると思うが、そういう方に病院の方で手帳の配布をお願いしたい。CKDにも糖尿病予防があるので専門の先生にやっていただければと思う。手帳が重複して何が何だかわからないということではなくて、この「糖尿病連携手帳」と「お薬手帳」があれば、ある程度網羅できるという風になればと思う。

構成員（薬剤師） まず、手帳を配るということに関して、「糖尿病連携手帳」をいろいろな所からいろいろな形で配るが、「誰」が「どれだけ」配ったということをどういう風に調べるのか。啓発が半分、あとは事業をゆつくりと乗せていくということであれば、薬局の役割についてのご協力は可能かなと。ただ薬科としては基本的にはかかりつけ医のフォローをしていくというのが筋、本来の順番だろうと思う。

構成員（かかりつけ医） 本来はかかりつけ医が一括で「糖尿病連携手帳」を入手し、駅前薬局があれば依頼の形で配ってもらうことがよいが、結果論として広めるのが目的であるので、何とか連動できる形を相談させて欲しいと考えている。

構成員（薬剤師） 糖尿病で連携していない場合もこの「糖尿病連携手帳」を渡すことによって、いろんな人が連携の輪に乗っていくというスタイルを広げたい。その窓口ということであればご協力はたぶん可能かと思う。積極的に配るのではなくて、そういった形の中で手帳を貰っているか貰っていないか確認して、貰っていないという場合は「こういうものがあるよ」とお渡しできるというのがいいのかなと今思っているところである。

構成員（糖尿病専門医） 「糖尿病連携手帳」を主治医が渡して「どれだけ患者が携帯してくれるか」ということが、実はそれが一番問題である。私の医療機関ではかなり前より該当の患者全員に渡しているが、それを他の病院にかかるときに、例えば「歯科とか循環器にかかるときに見せていますか」、「いつも持っていますか」というと「いつも」という人は50%位しかいない。私の病院に来る時は持って来るが、普段持っていかないと。そこで、私の医療機関のスタッフが他科受診の際の糖尿病連携手帳の持参について教育したらいろいろな所へ持っていくようになった。今度この事業でかかりつけ医が「糖尿病連携手帳」を渡して、それがどれだけ携帯されているか。本当に携行してもらわないと意味がないので、例えば持っていれば低血糖で倒れた時にわかるし、インスリンや経口薬も書いているので、もし薬局の先生方が協力していただければ、お薬手帳で糖尿病ということが判るので、その時の「糖尿病連携手帳」の持参についてカウントすれば、所持率がわかると思う。これは全員する必要はなくて、サンプリングで何%持っているか、薬局の先生の協力があれば1年か2年してからお願いするという形であれば普及率がわかると思う。

事務局 患者が「糖尿病連携手帳」を持っているところを受診していただくというのが非常に重要なことだということのご助言をいただいたかと思うが、患者の会としては、患者がどのくらい手帳を持って眼科や歯科を受診しているかについて情報はお持ちですか？

構成員（患者の会） はっきり言って、糖尿病の治療の時しか持って行かない。あと風邪ひいたとか歯医者とかには持って行かないというか、忘れる。糖尿病の治療の時を持って行くのだが、忘れることが多い。

事務局 非常に重要なご意見であった。事業を始める時も市民の皆様全体にも啓発をいろいろな所で我慢強くやってく必要がある、専門職の皆様方に頼るということでは難しいのではと思っていた。

構成員（歯科医） 普及させるのに市の薬局のご協力が方向性としていただければ、八幡の場合には八幡薬剤師会で糖尿病の研修会をやっているのでも、そういうところで諮ってはどうかと思っている。モデルになるようなものがあると広がると思う。基本はかかりつけ医が、患者に対面で配るというのが一番だと思うので、連携のためには先手をしっかりとっていくというのが大事になってくると思うので、医師会でPRをしていく手段としてどういうやり方で実施していくのか。やったことには評価が必要になってくると思うし、浸透させるにはどういったツールを使用するのかといったことが必要になってくると思う。なかなか3師会等と一緒に集まるというのができないので、取っ掛りができればと思う。

構成員（かかりつけ医） 方法論の話になるが、北九州市は元々 5 つの市が合併した連合都市であるので、市医師会も法人格が 5 つ集まっている。3 師会とも同じ。この糖尿連携推進会議は区の集まりではなく、市の集まりあるので、市の医師会は区の医師会に各区の 3 師会連携について下ろす予定である。各区は各区で、3 師会で管理されているはずであるので、そこで動かさなければいけない。ここで、歯科医師会と薬剤師会の先生方をお願いしたいのは、医師会から声掛けをするが、全体として各区の 3 師会で連動できるように、その時に一緒にということで広めていただけたらという風に思う。各区でしか分からないことがあるので。糖尿病の先生方で勤務の先生方、糖尿内科の先生方にご理解いただけるという。患者は診療所より病院の指導は聞きやすい傾向がある。

構成員（かかりつけ医） それぞれ区の単位が異なり、小倉医師会は巨大である。AB 合わせ 7 0 0 人以上の会員がいる。小倉医師会としては、まず内科医会の先生方に伺って、もしよければ内科医会の会長にご説明させていただいて周知させていただく。各区によって体制が異なり事情が違うので、それぞれの医師会に働きをかけていただきたいと思う。各区の行政を使うというのも一つの手かもしれない。その辺を検討いただければよいかなと思う。

構成員（歯科医） 歯科の方ですが、糖尿病の連携について、多職種ということで薬剤師会とも連動していて繋がっていくだろうと思っている。今度薬剤師会の 1 0 0 周年もある。がん連携というのが医科歯科連携という中で充実していて九州病院とかは 9 7 %とか連携できている。何かと結び付けて、病院と連携もいかなと。

構成員（歯科医） 若松区は非常に連携が取れていて非常にやり易いが、他はどうかと思っているところである。市歯科医師会ではこういう連携手帳を持って来ていただいた場合には、記入のお願いをしますという周知に関しては、各歯科医師会は問題なく出来る。

事務局 やはり普及が大事ということからの議論だったかと思うが、様々な団体様で様々な会合だとかをお持ちだと思う。市としてもパンフレットを作ったりチラシを作ったり周知資料作成を行っていくが、ご依頼をいただければいろいろなところに話にも行くことができる。しかしそれも限界があるので、先生方でお話の場面等があれば糖尿病の取組の周知の部分ができる限り協力をいただければと思っている。必要な資料や配布物というのは市で準備をさせていただくので、そういった情報を役所にお寄せいただければと思う。

構成員（かかりつけ医） 先日、福岡県医師会で各医師会特定健診・特定保健指導担当理事会があったが、その時に北九州のCKDと糖尿病の取組のことの説明について依頼があり説明した。その中で、他医師会でもシールは知らなかったが、手帳を使おうと思っていたということで、会議が終わった後に直接質問があったので、行政に聞くように言っていた。患者の一部は北九州市内の病院に来ている。これが広がれば他の医師会でも互いに広がるかもしれないのでそういったことを頭に入れておいていただきたらと思う。行政の方も、もし連絡がきたらよろしく願いたい。

構成員（CDE の会） 手帳を使った場合、血糖測定の際に○を付けるということになると思うが、受診間隔は眼科や歯科の医療機関で書いていただくということで、まずは行ってくださいということでよいか。

事務局 シールに関して、健康推進課の方で作成した案になる。実際には、印刷会社に委託をして、イラスト等再構成予定である。構成、内容についてご意見をいただければと思っている。このシールについては、第1回目会議で提示したものは2年～3年間位の日程が入る形で字が小さ目であったが、1年毎にし、全部埋まったら貼り直しをするというイメージで1月～12月分が記載できる形で作り直しをしている。リーフレットの案については、説明をするツールになると思うので、いろいろな場所に配布をさせていただきたい。リーフレット内には「糖尿病とは」、「糖尿病が重症化すると」といったような糖尿病重症化予防に関する説明、重症化の予防について、糖尿病連携手帳に貼るシールの意味について記している。リーフレットの最後のページには、関係団体の名称を入れさせていただいている。北九州市の予防に関するサポート団体皆で糖尿病の重症化を予防していきたいということで書いているので、ご確認いただきたい。最後にA4版の資料であるが、実際はポスターにさせていただきたいと思っている、案である。これを医療機関や歯科医院、薬局等それぞれの場所に掲示をしていただきたいと思いますので、ご意見があれば、お願いしたい。本日皆様に配布をしている糖尿病連携手帳にはリングをつけさせていただいている。患者の方は、お薬手帳やその他のいろいろな手帳を皆さんお持ちであるのでバラバラにならないように歯科に行く時も眼科に行く時もお持ちいただきたいということで、シールと合わせてリングを市から配布をさせていただきたいと思っている。こういったイメージでどうかといった所もご意見があればお願いしたい。表紙の受診間隔であるが、実際の記載は、網膜症であれば眼科、歯周疾患であれば歯科で記載させていただきたいと思っている。それぞれの医療機関で、来所の月に○をしていただきたいと思います。

構成員（かかりつけ医） シールに記載するのは医師か、または患者か。

事務局 患者に記載をお願いしたいと思う。リーフレットに受診した日を忘れないように「ご自身で○をしましょう」と記載しているが、やはり、お年寄りの方などは手帳を持ってはいるが○をしそびれるというのがあるかもしれないので、関係団体の皆様方にご確認いただいて、「○をしてないね」など声掛けしていただきたいと思います。

事務局 原則記載は患者であるが、なかなか本人が○をするのは難しいのではないかと、先生が○をする時間はないのではないかと、また受付の方にしっかりとこのような取組を伝えておく必要があるのではないかとご意見をいただきたい。また、この表記でいいのか、保健指導は栄養を頭出ししなくていいのか、1年分でいいのか等、お気づきの点があればご意見をいただきたい。

構成員（歯科医） リングは非常に有効である。お薬手帳は歯科の場合ほとんど持参する。何故かというのを飲んでいただくか必ず聞くので。しかし、糖尿病連携手帳は糖尿病の専門医にかかっている人しか持参しない。持参があれば中に記載をするが、まだ古い手帳を持ってこられる方が多いようだ。早く第3版以降に変えてもらわないと書くところが非常に少ない

ということがある。

シールに本人が書くのは難しいのではないだろうか。実際は病院で誰かが書くようになるのではないかと思う。

構成員（糖尿病専門医） 原則は、患者さんが書くという風にしておいたほうが良いと思う。自己管理意欲ということになるので、患者に書いてもらうということにして、現実には医療機関でつける場合があるとしても「付けてあげます」ではなくて、「自分でつける」という表現にしておいて、運用は付けていない場合は付けてあげるという形の方が、やはり自己管理意欲という面からは大事なことかと思う。

構成員（薬剤師） 糖尿病手帳の普及をお薬手帳のレベルにしたいというような意味なのか。今、既存で持っているお薬手帳に穴を開けるというのは、結構物によっては難しい厚みになっている。どんどん使い込んでいくとすごく厚くなることもある。それに物理的に穴を開けることが果たして各薬局にそういうツールが有るかということが正直わからない。新品に穴を開けるのは可能であるが、厳しいケースも想定される。

事務局 例えば「全ての対象者に手帳を配る」、「シールを貼っていただく」、「穴を開けてリングを付ける」は、必ず実施ということではなくて、運用のための方策として市として出来る範囲での実施のご提案であるので、場合によっては無理な場合や、厚みのある場合は、一緒に冊子を持って行っていただく等そういったケースは当然ありうと思っているので、運用については臨機応変に、これでなければというものはないのでお願いしたい。

構成員（薬剤師） 承知した。

構成員（かかりつけ医） お願いになるが、糖尿病連携手帳の4から5ページの基本情報を患者さんは書かない。配布した、かかりつけ医が書かないといけないと思うが、その後の6ページ7ページは各病院だったり歯科医だったり記入、また糖尿病連携手帳の配布もするので、もし持ってくる人が出てくれば、かかりつけの薬局やケアマネージャー等が見た、渡したということを書いていただいてもいいのかなという気がする。そういった事も取組みが進み始めたらご相談させていただけたらと考えている。30ページは医者が書かないといけないと思う。

構成員（栄養士会） 保健指導に栄養指導も含むということであったが、患者が書かれるということであれば、やはりシールの欄は別に生活指導、食事指導という風にしていただいた方がわかると思う。

構成員（看護協会） 記載する所が多くなったりすると思うので、中身に名刺等貼ったりすることは出来ないだろうか。印鑑等があったらいいと思う。記載を継続するとなると難しくなっていく。字が小さいので、字を見て書いていくのはしっかり書いていく人でないと続けていけない。まずは浸透してって、利用している方のご意見を聞く必要がある。

構成員（かかりつけ眼科医） 眼科では眼手帳というのを使っていて、2冊あると記載に時間がかかる。穴を開けるのは誰がするのか。医療機関に穴あけの機械があるのか。ゴムでまとめて持参して来る人もいるので、手帳を持って行くというのがはっきりすれば、きちんとまとめて持って来てくれると思う。「糖尿病連携手帳」は、日本糖尿病協会の方が一生懸命作ったもので、中身について要望があるとは思いますが、日本糖尿病協会の編集委員にお伝えしてもらわないといけないと思う。眼手帳の内容も改定されている。かなりの人が持っていると思う。私の眼科では近隣の総合病院からもらっているのが普通になっているので、他の医療機関とは違うかもしれないが、持参者が増える感じがすると思う。

事務局 糖尿病連携手帳の中見については、今回、日本糖尿病協会も構成員となっており、日本糖尿病協会とも繋がりが出来て来ているので、今後の運用の中で日本糖尿病協会にご意見を伝達することについてできるかと思っている。

構成員（日本糖尿病協会） その点に関しましては、以前、糖尿病連携手帳は、眼科も歯科も書く欄が少なく、眼科では増殖性の網膜症の書く欄が無かったとかでここ何年かの内に2回改定をした。月1回1年半位使うものである。2～3年1回位は意見を取り入れて改善して、今回、眼科や歯科など合併症に関して、かなり書く量が多くて、これを網羅するのは相当大変だろうというご意見であるので、ご意見を取り入れながら少しずつ分かりやすくしていく必要があるのかなと思っている。協会の方で手帳について意見をあげてみる。

事務局 連携シールについて、手帳の中見についてご意見をいただいたが、シールについては、来年度に配り始めるということになると、もうそろそろ内容を固めないといけない。これは1年位やってみて、「変更もあるもの」という形で、これでいきますということを決めたいと思っている。

構成員（かかりつけ医） 基本的にはあまり細かくしない方がいいと思っている。取組をしていく中で考えるのが一番と思う。CKD 予防連携システムの時もそうであったが、運用をしていく中で訂正があれば、その都度検討していけばよいのではないかと。現在は書く欄が結構多いが、医療機関からいろんな意見が出てくるのではないかとと思うので、これはこれで運用を始め、その中で訂正があれば考える、という方式でよいのではないかとと思う。

事務局 事務局として確認であるが、シールの「保健指導」の欄が患者様から見て解りにくいということであれば、修正を事務局で行い、皆様にお知らせしたいと思う。次に、事業の評価方法について事務局の方からご説明をさせていただきたい。取組を行っていく中で、評価というものが必要となってくる。現在の「糖尿病連携手帳」の活用医状況や多職種連携がどのような状況であるのか、大まかな把握をさせていただきたいと思っている。3月6日の日に特定健診登録医療機関研修会が市医師会主催で開催されるので、その際に「糖尿病重症化予防連携に関するアンケート」を参加の医師の先生に取らせていただきたいと思います。歯科医師会においては、以前より医科歯科連携の中で連携状況について調査等をされているということで伺っている。また、

特定健診の結果を元に血糖値の高い方等、特定保健指導非対象者の方へ保健指導をさせていただいているが、一部該当者を対象にこのアンケートを取らせていただき、市民の方の状況を調査させていただきたいと思っている。このアンケートの結果を実施前として、1年後というわけではなくて、健康づくり推進プランやデータヘルス計画が5年6年といった計画になるので、見直し時期である、平成32年度や平成35年度を目途に普及状況について再度アンケートを実施させていただきたいと思っている。事業評価のアウトプット評価としては、特定健診における糖尿病のデータ、HbA1cのコントロール不良者の割合や、未治療者の割合の減少等を見ていくとともに、長期的には新規透析導入患者数等を見させていただきたいと思っている。

データヘルス計画や第二次健康づくり推進プラン等に各指標の現状値等は配布資料中に記載しているのでご確認いただきたい。

評価の仕方は様々あるが、今回は医師会の研修会の中で、かかりつけの先生方へアンケートを取らせていただきたいという行政側からの提案である。

構成員（かかりつけ医） 「糖尿病連携手帳」は記入項目が多いが、データ等を記載するところがあるので、例えば腎機能であるとか、他の病院から来られた方とか、データをもって来られない方もおられるので、糖尿病連携手帳があると安心して投薬できると思う。お薬手帳が震災の時に役立だった。同じように患者の啓発、糖尿病の患者に限られるかもしれないが、予防に重点を置かれているように思うので1冊携帯していれば、近日の病態が把握できて他の医療機関受診をした時も安心してかけられる一助になるのではないかなと思う。

構成員（かかりつけ医） アンケートの項目3の医療スタッフのことについて、看護師・保健師・管理栄養士の生活習慣指導の有無については一般の診療所にはほとんど専門スタッフはいないと思う。よって、これはほとんどが「していない」ということになると思うが、CDEの会は、スタッフのいないところへ必要があれば行くということはあるのか。

構成員（CDEの会） 以前 J-DOIT2（かかりつけ医による2型糖尿病診療を支援するシステムの有効性に関する研究：国糖尿病予防のための戦略研究）があったが、あの時手を挙げた方もおられる。また募集を行えば、参加があると思うが、経営様式をしっかりと作って始めないといけないかもしれない。

事務局 この項目の目的としては、専門の看護師や保健師、栄養士等のいる医療機関数を把握して、専門スタッフのいない機関での糖尿病連携手帳の活用状況、多職種連携について現状把握したいというのがある。CDEの方がいるところは既に実施していると思う。

構成員（かかりつけ医） ということは、このアンケートは1回目ということか。同じことを聞いても仕方ないので、今後変えていく必要がある。
普及する為には最初はいかに易しい取組であるか。難しいことしないのでとりあえず使ってほしいと。そのうち慣れてきたら再検討というのがよい。最初からハードルを高くするようなことはしないほうがよい。

構成員（かかりつけ医） 専門職の派遣の話であるが、支払い元と継続性はどうか。所属機関との兼ね合いや支払い、予算もあるので、勤務体制や許可申請面等、全部考えていただければと思う。

構成員（かかりつけ医） 根本的なことをお聞きしたい。今までの、国保は健診受診率 60%、保健指導実施率 60%だが、後期高齢者の負担期の加算減算制度についてなくなったということでしょうか。

事務局 平成 29 年度までは残っている。30 年度から新たなインセンティブの制度「保険者努力支援制度」が始まるので、罰則というのは国保に関しては無くなる。健診受診率の他に糖尿病の重症化予防等、医療費適正化に資する取組をしたところに上乗せをするという仕組みである。ただ、国保以外の協会けんぽや共済組合、健康保険組合等では加算減算の仕組みが継続する。
アンケートについては 3 月の研修会でという形で結果もご報告しつつ、次の形を考えたい。

構成員（かかりつけ医） アンケートは今度の新規の登録医療機関研修会で配ってよいか。詳細は確認させていただきたい。

事務局 まず確認事項として、この事業の市民、各機関からの問い合わせ窓口に関しては、健康推進課とさせていただく。行政もいろいろな場所に出向いて糖尿病の予防の重要性も含めて、この事業の PR に務めていくが、各団体で周知できる場があれば、情報をお寄せいただきたい。皆様方ご自身の講演等の機会があれば、資料等用意させていただくので皆様の周知のできる範囲でお願いしたいと思っている。
事業のスタートについては、来年度事業となるので、「糖尿病連携手帳」の配布、「連携シール」等の配布については 5 月の特定健診の開始に合わせてとさせていただきたいと思う。5 月頃までに皆様方のお手元に届くように準備を進めて参りたい。この会議については次年度の開催時期は未定であるが、この会議を開こうと思っている。
本日の議事録は概要を市の公式 HP に UP させていただきたいと思っている。
それでは本日はこれで、会議を終了する。